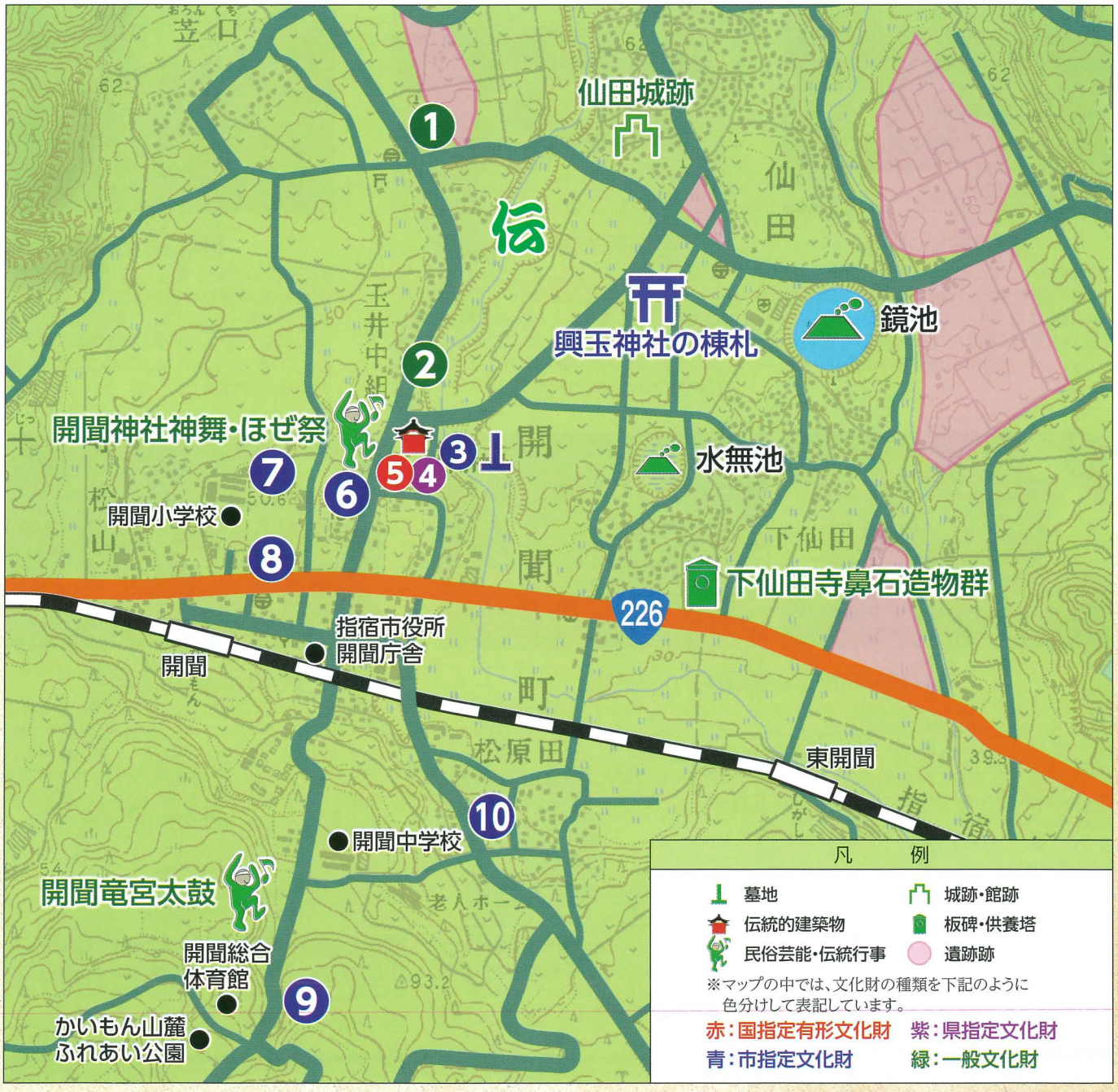
指宿まるごと博物館 文化財マップ 枚聞神社エリア

神話の里 開聞

枚聞神社周辺は、山幸彦・海幸彦・豊玉姫の神話や天智天皇のお后になった大宮姫の伝説にまつわる文化財や地名が数多く残されている。

平成29年度文化庁文化芸術振興費補助金
(文化遺産総合活用推進事業)

お問い合わせ 指宿まるごと博物館実行委員会
時遊館COCCOはしむれ
住所 指宿市十二町2290 電話 0993-23-5100
http://www.city.ibusuki.lg.jp/marugoto/



指宿まるごと博物館 文化財マップ 枚聞神社エリア

玉乃井

『三国名勝図会』や『開聞山古事縁起』によると、このあたりは太古龍宮界であって、山幸彦と豊玉姫との出会いの場所といわれている。このことから、日本最古の井戸ともいわれている。

日露戦争凱旋門

明治37年８月、日露戦争の旧開聞町郷土の出征兵士の帰還を迎えるため建立されたもの。出征兵士は、十町15人、仙田45人、川尻60人の計120人。昭和40年代に県道拡幅改良工事で撤去され、平成60年に有志らによって、現在の場所に復原した。

瑞応院中興開山舜請の墓

舜請は、正中３年(1326)に瑞応院を再興し、応永27年(1420)11月27日、131歳で亡くなったといわれる。墓は枚聞神社の東側に建てられ、3基の宝筐印塔の中央にある。舜請の墓だけは神社の方角(西)を向いている。

枚聞神社本殿

薩摩国の一の宮。縁起によると、和銅元年(708)の創建とされ、現在の本殿は、慶長15年(1610)に島津義弘が寄進し、天明７年(1787)に島津重豪が改築した。総朱塗極彩色で、特に向拝柱雲竜の彫刻柱は製作技術の高さを示している。

松梅蒔絵櫛笥附属品並びに目録共　一合

松梅の蒔絵で飾られた女性の化粧箱。通称「玉手箱」。中には、小さな櫛が11本、小さな壺が１つなど23個の化粧道具が入っている。目録には、大永３年(1523)とある。

瑞応院跡

枚聞神社の西側一帯に、江戸時代まで瑞応院という枚聞神社の別当寺(神社に付属していた寺)があった。瑞応院は、僧正智通が白雉３年(652)に開山。その後、数百年の間廃寺となっていたが、正中３年(1326)、島津氏が舜請和尚に再興させた。

九郎塚(クロドン)・頼宋塚(デスドン)

頴娃氏６代城主兼堅の子九郎には、兼堅の側室の子である小四郎という弟がいた。兼堅の死後、この異母兄弟の間で相続争いが起こった。九郎は、元亀２年(1571)７月13日、63名の家来とともに枚聞神社に立てこもった。瑞応院14代住職の頼宋は、九郎を坊之津の一乗院に逃がそうとしたが、ともに殺されてしまう。二人の死を悼んだ村人は、九郎と頼宋が亡くなった場所にそれぞれ塚を建て、二人を供養したという。

天の岩屋供養塔群

室町時代から江戸時代にかけての板碑と五輪塔が残されている。伝説によると、神仙塩土翁が、岩屋で法水を汲んで修行をしていた。１頭の鹿が来て法水をなめると、たちまちみごもり、口から女の子が生まれた。瑞照姫と名付けられた女の子は、後に天智天皇の后になり、大宮姫と呼ばれたという。

松原田観音寺跡石塔群

かつてこの一帯に観音寺という寺が建てられていた。昭和２年、公民館敷地の整地時に、埋もれていた六地蔵塔や板碑等の供養塔を掘り出して保存。昭和59年、公民館の改築に伴い現在地に移設。大永２年８月(1522)の六地蔵塔は、この地方で最も古いものである。

平成29年度文化庁文化芸術振興費補助金
(文化遺産総合活用推進事業)

お問い合わせ　指宿まるごと博物館実行委員会
時遊館COCCOはしむれ
住所　指宿市十二町2290
電話　0993-23-5100
http://www.city.ibusuki.lg.jp/marugoto/